イチジク株枯病抵抗性台木新品種「励広台1号」

イチジク栽培における最重要病害株枯病に新たな対策。野生種イヌビワとイチジクの種間交雑に世界で初めて成功し，種間交雑体を用いた抵抗性台木を品種登録出願。2022年の秋から「励広台1号」台の接ぎ木苗の販売開始！

背景と目的

イチジク：結果樹齢に早く達し，収益性が高い。多くの府県で栽培を奨励。
近年の健康志向の中で消費者の人気が高まる。

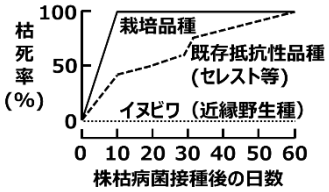
①株枯病はイチジク栽培の最重要病害

罹病樹

本病による廃園

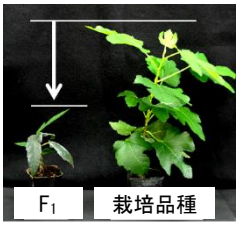
②既存防除方法の問題点

殺菌剤の毎月灌注
実施は困難

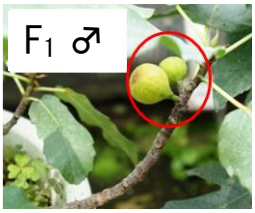


既存抵抗性品種は
延命するがいずれは枯死

③イヌビワの抵抗性に着目して種間交雑



イチジクとイヌビワ花粉
による種間交雑第一
世代（F_1）は生育不良の
ため台木に不適



イチジクとF_1の花粉を
用いて戻し交雑第一
世代（BC_1）作出に
挑戦

④戻し交雑により複数のBC_1を作出

BC_1の生育は栽培
品種とほぼ同等

BC_1の半数はイヌビワ
由来の抵抗性を保持

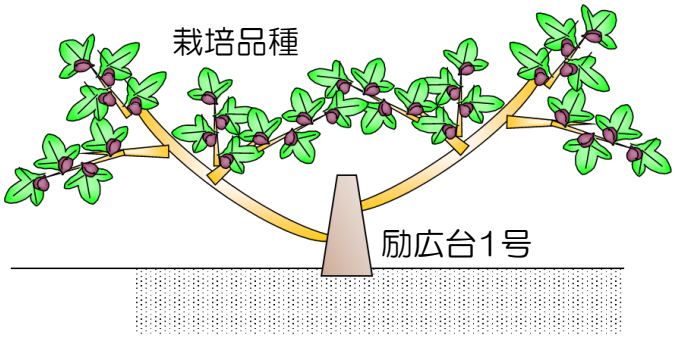
⑤抵抗性台木新品種開発に向けて，2017年度から有望BC_1を絞り込み。

選抜基準：イヌビワ同等の抵抗性・イチジクの主要品種との接ぎ木親和性・
自根樹と同等の果実品質・収量

成果と将来像

基準を満たす1系統を「励広台1号」として農研機構と品種登録出願（2019年12月5日）

「励広台1号」台の接ぎ木苗販売開始（2022年秋以降）



これからのイチジク栽培のイメージ

＊本研究の一部は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」において実施しました。